

## 研究主題「根拠や理由を明確にして、自分の考えを表現する児童の育成

### ークリティカル・リーディングを取り入れた説明的な文章の学習を通してー

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

三鷹市立高山小学校 主任教諭 関口 佳美

#### 第1 研究のねらい

国語科学習指導要領改訂の基本方針では、「論理的に思考し表現する能力の育成」を求めている。このことを受け、「読むこと」の領域では「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」が新設された。文章を正確に理解するだけでなく、それに対して自分の考えをもち表現しようとする主体的な読み手を育てることは、「情報を的確に入手・分析・統合し、新しいアイデアを生み出す資質・能力（平成25年度国立教育政策研究所 報告書5）」を高める重要な要素であると考えられる。しかし、平成26年度「全国学力・学習状況調査」では、詩を読んで自分の考えを書く設問に対し、東京都の児童の正答率は29.2%、無回答率は5.6%であった。ここから、読んだことに対して自分の考えを述べる学習を充実させる必要があると考えた。

文部科学省「読解力向上プログラム（平成17年）」や東京都「言葉の力再生プロジェクト（平成22年度）」では、文章の内容や構成を「評価」したり「建設的に批判」したりする読み方として、クリティカル・リーディングが示されている。評価したり批判したりする際には、主張だけでなく、その理由を説明することが必要になる。このことから、「読むこと」の学習にクリティカル・リーディングを促す場面を取り入れることで、自分の考えをもち表現するために必要な根拠や理由の示し方を、具体的に学習することができると考えた。

また、本研究は説明的な文章の学習を通して進めることとした。説明的な文章は筆者が自分の主張を伝えるために、事例の挙げ方や用いる表現、文章構成を工夫して書いた文章であり、その効果や適切さについて、児童が考えを述べる学習に適していると考えたからである。

#### 第2 研究仮説

説明的な文章の学習の中に、文章を評価・批判してその理由を述べるクリティカル・リーディングの学習を設定し充実させていけば、児童に根拠や理由を明確にして自分の考えを述べる力が高まるだろう。

#### 第3 研究の内容と方法

##### 1 基礎研究

##### (1) 考えの形成について

小学校学習指導要領解説

国語編「C読むこと」の「自

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
説明的な文章の解釈	時間的な順序 事柄の順序	中心となる 語や文	要旨や、事実と感想、 意見の関係
考えの形成（根拠の示し方） 「～という言葉は」	大事な言葉や文 を書き抜く	引用、要約	→
交流（考えのまとめ方） 「…ということだから」	自分の経験を結 び付けて	→	→

表1 「小学校学習指導要領解説国語編」より「読むこと」の指導事項（抜粋）

分の考えの形成及び交流に関する指導事項」から、考えをもつための指導事項を確認した。中学校の指導事項にも同様の内容が記されていることから、小学校で①根拠となる叙述を捉える、②それを知識や経験と結び付けて意味付ける、という習慣を育てることが重要であると考えた。

##### (2) クリティカル・リーディングについて

クリティカル・リーディングでは、「評価」を、意義や価値を認めることとし、「建設的な批判」を、いろいろな角度から検討する、前提を揺さぶってみる、他の考えを出してみるなど、文章を自分に引き付けて理解する主体的な読み方としている。文章を分析的に捉え、意味を正

しく理解した上で、自分の考えを述べようとする態度を育てることは、21世紀型能力として批判的思考力が注目されていることから重要であると言える。考えを述べる際には、①文章から根拠となる言葉や文を取り出す、②自分の主張（立場）を決める、③知識や経験と結び付けて②の理由を話す、の3点が必要になる。学校では、文章の叙述をそのまま自分の考えとして表現する児童が見られる。根拠と主張が未分化になるのは、叙述をどのように捉えたのか理由が介在しないからだと考えられる。クリティカル・リーディングを取り入れることで、特に③の理由を述べる力を伸ばすことができ、自分の考えを詳しく述べる児童が増えると考えた。

### (3) 考えのもち方について

先行研究から、考えには「根拠（この叙述を）」、「理由（このように捉えたから）」、「主張（こう考えた）」、という三つの要素が必要だと分かった。文章中から根拠となる叙述を挙げるだけでなく、その意味を自分の知識や経験と結び付けて説明することで（理由付け）、主張は説得力が増す。児童の考えを表現する力を高めるためには、自分の言葉に置き換えて説明する習慣を育てることが大切であると考えた。指導者は、理由の説明が必要になる学習課題を設定したり、児童の発言をよく聞いて考えがより具体的になるよう理由を問い直したりするなど、学習指導を工夫して児童の思考を深めていく必要があると考えた。

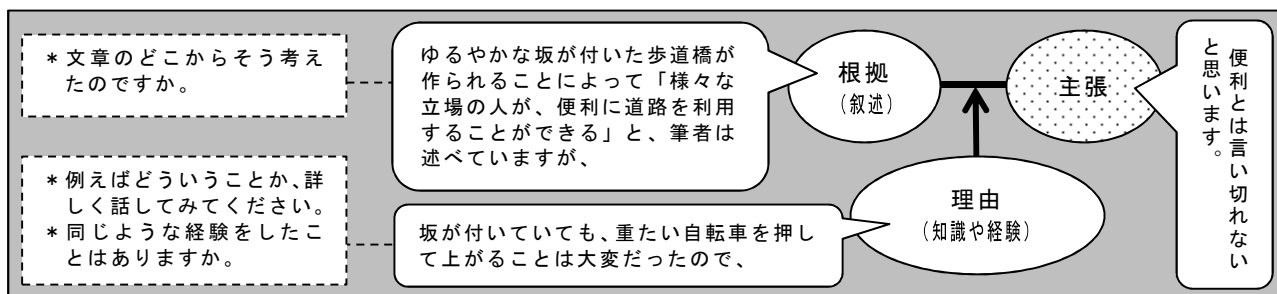


図1 考えのもち方の構造図と問い直し(\*)の例（筆者の意見に対して考えを述べる場面）

## 2 調査研究

都内公立小学校の第3学年から第6学年の児童645名と、教員57名を対象に質問紙調査を実施し、説明的な文章の学習に対する意識や実態を調査した。「説明的な文章を読み、自分の考えを書くことは好きか」との設問に対し、中学年約75%、高学年約50%もの児童が肯定的に回答した。しかし、約81%の教員は、「根拠や理由を明示して考えをもつことができる児童は少ない」と感じていることが分かった。「説明的な文章を読み自分の考えを書くこと」に消極的な回答をした児童の多くは、「書き方が分からない」、「何を書けばよいのか分からない」、「理由を書くことが苦手」などの理由を挙げており、自分の考えをもち表現する力を高めるためには、図1のような考えのもち方を丁寧に指導する必要があることが分かった。

## 3 開発研究

### (1) 児童の考えのもち方の分析方法

児童に1枚の絵と三つの題名を見せ、どの題名が絵にふさわしいかを問い考えを記述させ、理由の有無や内容に注目して四つに分類する（表2）。

**絵**

どの題名が最もこの絵にふさわしいと思いますか。題名を選び、先生が「なるほどな」と分かるように説明してください。

①夕暮れのひととき ②あたたかな昼休み ③村の秋

評価	記述の分類
A	根拠を基にした理由がある
B	理由はあるが、根拠を基にしていない
C	根拠をそのまま理由にしていたり、主張と関係のない事柄を挙げていたり等、理由がない
D	無回答

図2 児童の考えのもち方を分析する課題

表2 児童の記述の分類

## (2) クリティカル・リーディングを取り入れた学習過程の編成

学習過程	ねらい	発問例（一部抜粋）	
発見	児童の既有知識を確認・活性化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（題名を読んで）何が書かれていると思いますか。</li> <li>・〇〇を説明する文章を書いてみましょう。</li> <li>・〇〇について調べてみましょう。</li> <li>・〇〇について友達と話し合ってみましょう。</li> </ul>	
	教材文を通読して自分との共通点や相違点を見付ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の一番言いたいことは、どこに書いてありましたか。</li> <li>・自分が思っていたことと比べてどうでしたか。</li> <li>・教材文を読んで、疑問に思ったことはどのようなことですか。</li> </ul>	
理解	文章構成を捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は主張を説明するために、どのような具体例を紹介していますか。</li> <li>・筆者は、具体例に対しどのような意見を述べていますか。</li> <li>・この文章全体は、どのような組み立てになっていますか。</li> </ul>	
	本論の事例の挙げ方から筆者の意図を捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A～Cは、どの具体例の仲間だと思いますか。</li> <li>・文章の特徴を正しく説明している文は、A～Cのどれだと思いますか。</li> <li>・筆者は、どうしてこの順番で具体例を並べたのだと思いますか。</li> <li>・〇段落は、必要だと思いますか。（なぜ書いたのでしょうか。）</li> </ul>	
評価	文章の内容や構成を評価して、自分の考えを述べる	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の意見に対し、賛成（反対・どちらとも言えない）ですか。</li> <li>・もっとよい題名はありませんか。</li> <li>・もっとよい解決方法はありませんか。</li> </ul>
		構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の説明の仕方は、分かりやすいですか。</li> </ul>
創造	新しい視点を活用し情報を発信する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他に、どのような具体例がありますか。付け足して書いてみましょう。</li> <li>・自分だったらどうしますか。書いてみましょう。</li> <li>・身近な〇〇を説明する文章を書いてみましょう。</li> </ul>	

クリティカル・リーディング

表3 自分の考えをもち表現するための説明的な文章の学習過程とそのねらい、ねらいを具体化した発問例

単元の学習計画を作成する際は、単元のねらいや教材の特性に応じて学習内容を選択する。「評価」の段階で文章の内容・構成のどちらについて考えさせれば文章をより深く理解できるのかを検討し、そのために根拠として捉えさせたい内容を「理解」の段階に設定する。「評価」したり「建設的に批判」したりするためには、文章や筆者の意図を正確に理解していることが前提になるため、「理解」と「評価」の学習内容のつながりが重要となる。

### (3) 考えのもち方を学ぶワークシートの作成

「評価」の場面では、自己学習の手順が身に付くようワークシートを活用する。例えば筆者の意見に対して自分の考えを述べる学習の場合は、右図の流れで考えを整理する。特に、③が根拠と主張をつなぎ自分の考えを詳しく説明するために大切であることに気付かせていく。

少人数や学級全体での交流場面では、理由の違いに着目し互いの考えを聞くよう促していく。

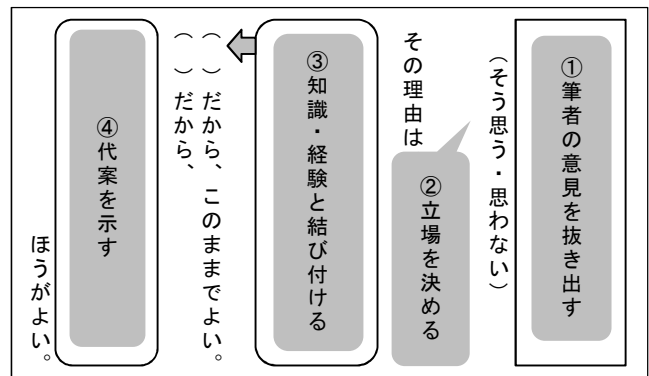


図3 ワークシート

## 4 検証授業

実施時期	実施単元
第4学年 9月実施	単元名：いろいろな立場から考えよう 教材名：『便利』ということ 著者名：太田正己（教育出版4年下）
単元目標 (読むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実と意見の関係を考えながら、筆者の考えを読み取る。</li> <li>・自分の知識や経験と比べたり、結び付けたりしながら文章を読み、筆者の意見に対し自分の考えをもつ。</li> </ul>

表4 検証授業の概要

発見	1	便利なものを紹介する広告文を書こう。
	2	筆者と自分の考えの相違点はどこですか。
理解	3	筆者はどのような具体例を挙げていますか。
	4	筆者はなぜこの順番で具体例を挙げたのでしょうか。
評価	5	「道具は便利になってきた」という筆者の意見に納得できますか。
	6	「歩道橋は便利になってきた」という筆者の意見に納得できますか。
創造	7	便利なものを紹介する広告文を仕上げよう。
	8	

表5 学習過程と各時間の主な発問

### (1) 事前課題

29人の児童が、「～だから」と理由を表す記述をしていた。しかし、「理由は根拠と主張をつなぐもの」という意識はまだ弱いと分かった。

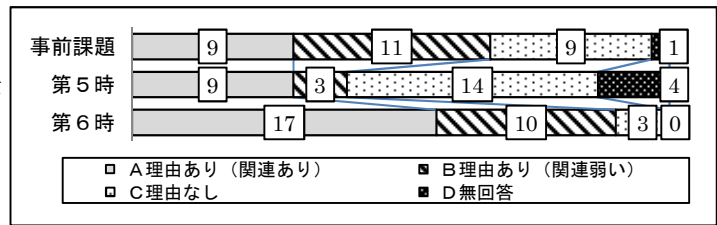


図4 理由に着目した児童の考えのもち方の変容 (30名)

### (2) 第5時－理由を説明する方法やよさへの気付き

教材文に対し、ほとんどの児童が納得や共感の感想を書いた。その考えを再考することをねらいとし、筆者の意見を評価する学習に取り組んだ。「道具は便利になってきた」という筆者の意見に対し、主張を「そう思う・思わない」の二項選択にして、その理由を述べる時間を設けた。児童は、全員「そう思う」を選択したが、理由の説明には苦慮していた。全体交流の場で、ある児童が自分の生活経験を基にした理由を述べると、周囲の児童から感嘆の声が上がった。友達の説得力ある説明を聞いたことで、理由を説明する方法やよさが共有された。学習感想には、理由を説明することへの意欲や、考えをもつことの大切さに触れた記述が多く出された。

### (3) 第6時－理由を説明することへの意識の高まりと、考えを表現する楽しさの共有

前時の学習感想から理由を説明する方法やよさを振り返った後、「最近の歩道橋は、様々な立場の人が、安全で便利に道路を利用することができる」という筆者の意見に対し、前時と同じ手順で考えを書いた。児童は、自分の知識や経験を引合いに出しながら、考えを詳しく説明しようとしていた。少人数や全体交流で、互いの考えを理由に注目して聞き合う中で、児童に「便利か不便かをすぐに判断するのは難しい」という迷いが広がり、教材文の段落⑩の「よく考えていくことが大事」という筆者の主張が実感を伴って理解された。授業後には「理由を考えると色々な考えが出るね。」「意見が分かれて、みんな面白い理由だった。」などの感想が記された。

第5時と第6時の記述を比較すると、無回答だった4名の児童のうち3名はBに、明確な理由がなかった14名の児童のうち6名はB、7名はAに当たる記述を書くことができた。変容の小さい児童は、「もしも自分だったら」と感覚的に説明をする傾向が見られた。B・C・Dの児童21名のうち18名に記述の変容が見られ、元々Aの児童の考えは説得力を増した。

	CからAに変容した児童の記述	Aからさらに考えを深めた児童の記述
第5時	C：そう思う。選べるようになってきているから。(教科書の引用のまま)	A：そう思う。野球をしたときにお父さんのバットを持ったら重たくて持てなかったけど、子供用を貸してもらったら持てた経験があるから。
第6時	A：思わない。安全だけど、歩道橋を上らなきゃいけないのは時間がかって面倒だから。横断歩道を使った方が早くていいと思う。	A：思わない。ゆるやかな坂でも自転車を押して上がるのが大変だったし、エレベーターやエスカレーターにも乗せにくいから。

## 第4 研究の成果

表6 児童の記述の変容

- ・知識や経験と結び付けて理由を説明する方法やよさに気付いたことで、自分の考えを詳しく述べようとする児童が増えた。また、自分の考えをもつ大切さや、考えを聞き合う面白さへの気付きが生まれた。文章を評価しその理由を述べる学習活動は、児童の考えを表現する力を高めるために有効だったと言える。教材文の趣旨を深く理解することにもつながった。
- ・理由の説明に着目した①少人数や学級全体による交流、②教員の問い直し、③学習感想の共有を繰り返すことで、児童が述べる理由の質が高まり、考えがより具体的になると分かった。

## 第5 今後の課題

- ・教材文の特性や各学年の指導事項に適したクリティカル・リーディングの在り方を検討し、理由付けに着目した学習指導を継続する中で、他の教材や領域への汎用性を追究する。